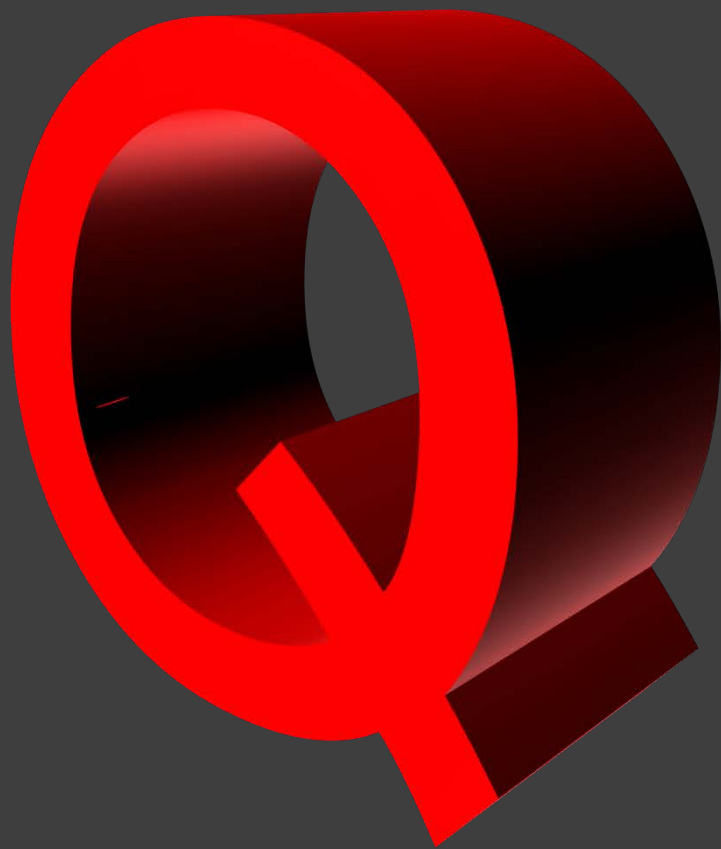




ザ トランプ

大貧民をやった。

手札にはキングが一枚、クイーンが四枚。

修羅場だな、と思った。

アリスとクイーンと女の闘い

(あらすじ アリスは兎を追いかけて不思議の国へ行き、色々あってトランプ達に追われています。)

トランプ兵は一丸となってアリスに襲い掛かりますが、カラテのクロオビ¹を持つアリスの敵ではなく、折り重なって倒れる姿はまさに死屍累々²。

「お前たち、ここは私に任せなさい」

如何にもありがちな台詞が聞こえたと思うと、全身を鎧で覆った偉そうな女性がやってきました。

「私はハートのクイーン。さあ、諦めておとなしく降伏して、ぶふう」

女王が口上を述べる隙にアリスは得意技の「二重の極み」で女王を鎧ごと打ち砕きました。一応児童向けファンタジーなのですが、主人公は全く自重する気がないようです。まさしく鬼畜。

「馬鹿な……しかし私は四姉妹の中でも最弱よ。お姉様達にやつつけてもらうんだから！」

そう捨て台詞を残し、女王は逃げ去っていききました。意外と可愛いキャラでしたが48歳です。

くアリスがチエシヤ猫と優雅に戯れる様子をイメージして暫くお待ちください

数時間後、ようやく一人目がやってきました。

「私がクラブのクイーンよう。格は下。だけど、ハートの奴より強いんですよ」

女王は《クラブ》の発音に気が使いましたが、年の割りにませた娘のアリスは、やはり怪しい意味のほうを連想しました。

さて、今度の女王は緑色のゼリー状の物体を鎧のようにまとっています。アリスは気持ち悪いと思いましたが、とりあえず殴りかかりました。

しかし、どうしたことでしょう。殴りかかったアリスの拳はゼリーに沈み込み、更にエネルギーを増して跳ね返されたではありませんか！

海外特にはハリウッドでは誤解されがちな日本の武道。類義語に「ジャヤスモウ、ドラゴンボールなどがある。

漫画『るろうに剣心』に登場。初撃を物体の弾性に吸収させ、変形した瞬間に第二撃を叩き込み破壊するという、要は強烈なパンチ。あんまりやると拳のほうが砕ける。

トランプはスベード、ハート、ダイヤ、クラブの順に偉い。

「あんたもこのフラバー製スーツにはかなわないようねえ、オホホホホ」

しかし流石はアリス、この物質の性質を即座に理解すると、女王の弱点、すなわち無防備な顔面に右拳を叩き込みました。物性関係ない。続けて二撃、三撃、あととにかくいっぱい拳を叩き込むうちに、女王の顔は真つ赤に膨れ上がり……

この後、女王が痛みに悶えるシーンが続きますが、児童向けファンタジーなので割愛します。あとダイヤの女王も地味だったので割愛します

やつとこさスベードの女王がやってきた頃には、辺りはすっかり暗くなっていました。

その間にアリスは闘いの舞台をセッティングしていました。友人のジャックの折りたたみ式軌道エレベーター³、通称「豆の木」を使い、月面で試合を果たそうというのです。

最終決戦を控え、両選手緊張の面持ちでエレベーターに乗り込みます。なお、スポーツマンシップにのっとり今回は不意打ちはナシだそうです。

エレベーターが成層圏を過ぎ、中間圏に入らんとする。まさにその時、事件は起こりました。エレベーターの扉が突然開き、急な気圧差にたまたま女王は外界に吹き飛ばされます。案の定アリスはとっさに何かにしがみついたので安心です。

再突入時の大気との摩擦は1500度にも達し、さすがの女王も黒こげになりました。薄れゆく意識のなかで、シンドラ社製の文字が見えた、と女王は後に語りました。

こうしてアリスは不思議の国を征服しましたが、ご存知の通りこの物語は夢オチです。

おしまい

映画『フラバー』に登場。弾性率1以上、つまり物理法則無視の夢の物質。因みに放射線を当てると空を飛び、音楽をかけると陽気に踊ります。

月と地上を結ぶエレベーター。SFかと思いきや、NASAなども真面目に研究している。ただし、地上と月面とを結ぶのは自転・公転周期差により実現は難しい。

標高50km。因みに気圧10分の一、気温マイナス2度。

2006年、とある住宅ビルのエレベーターの扉が開いたまま上昇、学生が体を挟まれ死にという事故が起こった。笑い話にするにはあまりにも痛ましい悲劇だが許してほしい。

「少女と猫」

ある貧乏な街に貧乏な少女がいました。

少女には家がありません。少女には家族もいません。少女にはお金もありません。ただ、愉快な仲間と愛する街と、太陽と月と明日がありました。

ある夜、少女は猫と出会いました。七番街で出会いました。

その猫は黒猫でした。その猫は捨て猫でした。首輪には小さく「Q」と彫られていました。

少女は猫を「Q」と呼ぶことにしました。

それから、二人は綺麗な夜の街を歩きました。

素敵な野原を歩きました。

夕暮れの廃墟を冒険しました。

ある日、少女は病気になりました。少女は、とてもお腹が空いていました。

意識がぼんやりしていました。

少女は思いました。「Q」を食べたらどうだろう、と。

少女は「Q」を見つめました。「Q」も少女を見つめました。

少女の眼から涙があふれてきました。

少女は痩せ細った腕で、「Q」をそっと抱きしめました。

少女は誰かの名前を叫びました。——誰かの。

少女は死にました。「Q」は鳴きました。泣きました。

そして、「Q」も死にました。

どこかの街のお話です。

オバケのQちゃん

わたしはQちゃんというペットをかっています。名前をつけたのはお姉ちゃんです。白くて口が大きいとよくが、ゆう名なオバケにしているからです。でもQちゃんには手も足もないので、おまんじゅうみたいです。

Qちゃんをひったのはつう山です。おばあちゃんとキノコをとりに行ったときでした。おばあちゃんはQちゃんのことを山のかみさまと言っていました。

Qちゃんはなんでも食べます。肉も魚もやさいも、丸ごとのみこめです。わたしがきういな「いじいも食べてくれます。Qちゃんは食べたんだけ大きくなります。はじめは手にのるへうい小さくて、鳥かごに入れていましたが、今はランドセルくらいあって入れないので、外に出してあげました。

さいきんお姉ちゃんは、Qちゃんにあんまりごはんをあげちゃダメと言いますが、かわいそうなのでついあげすぎてしまいます。きのうはれいぞうこの下のネズミとりにつかまっていたネズミをあげました。しんでいると思ったけど、Qちゃんにあげようとしたらきょうにあげられてびっくりしました。でもQちゃんはそのままのままでしまいました。

Qちゃんは、タマとはながわるいみたいです。タマは白いネズミで、Qちゃんにくるまえからうちにいます。でも、Qちゃんにはぜったいつかまません。ときどきQちゃんにむかっつなっています。きょうの朝、タマはぼんの時間になっても来ませんでした。家出したのかもしれない。早くもどって来てほしいです。

Qちゃんは

妹の拙い文字はそこで途絶えている。

リビングには妹のランドセルや帽子や上着が散乱し、今まさに帰ってきたかに見える。しかし、奇妙な静けさに包まれた家に人の気配はない。私は読み終えた作文を机の上に戻し、静けさの理由に思い当たると戦慄した。喉の奥からこみあげるものを必死で抑える。

みしり。遠くから、床の軋む音が聞こえた。みしり。何か重いものが、のろのろと近づいてくる。みしり。乾いた舌は口蓋に張り付き、悲鳴を搾り出すこともできない。みしり。硬直する身体を震わせ、振り返るところには

Qのしっぽはどっち向き?

突然ですが、利き手の人差し指で額にQを書いてみてください。
Qのしっぽは右目の上に来ましたか、それとも左目の上に来ましたか? Qのしっぽが左側に、つまり他人から見て読める向きに書いた人は、他人の目を気にし、状況に応じて行動し、自分をごまかすのがうまい。それに対しQのしっぽが右側に書いた人は常に「同じ自分」でありつづけ、他人への影響をあまり意識せず、人をだますのが下手な傾向にある。

この性格診断はリチャード・ワイズマン著、NHK出版の「Qのしっぽはどっち向き?」という本に載っているものである。性格診断と言えば、血液型によるものが流行っている。しかしABO式血液型による性格診断は科学的にも統計学的にも証明されてはいないし、血液型の分類はABO型以外にも数多く存在する。

ではなぜここまで流行ったのか。占いも含めこの手の物にはトリックがある。まず誰にでも当てはまることを言うこと。例えば「人か

ら賞賛されたい」「不安で心細いことがある」等。さらに多少のお世辞を含むこと。「能力を生かし切っていない」「自律している」などと言われればそうであると思いたくなるものである。また、当たったと思うものは記憶に残るが、そうでないものはすぐ忘れる。こうして性格診断が当たったという印象が残る。

一方性格診断を意識することで、性格が変わることもある。実際に占星術を信じている人の性格は、信じていない人に比べて占星術通りの傾向を示したという調査結果もある。

血液型別性格診断は、ますます複雑化する人付き合いを簡潔に済ませたいという考えの表れかもしれない。しかし、実際に四種類の人間しかいなかったらとてもつまらない社会になるだろう。マニユアルなんて存在しないから人付き合いが面白いのである。その苦労は惜しむべきではない。

血液型占いは自分の血液型以外のものから見ると面白い。自分の血液型よりも当てはまるものがあるかもしれない。

IQサ○リ

「あー、もー。」

「何怒ってんだよ。」

「この問題見てみろよ。」

③⑤○

⑭⑧⑥

⑨⑦①

⑬⑩⑫

○に入る数はなーんだ。これができたらIQ100

「この問題がどうしたの？ 2でしょ。」

「ま、まあ、そうだけど、『入る数』って何だと思ってね。例えばさあ、横に見て左から順にabcdと、おいて、

$$2a=b+c+d$$

も上二段あてはまってるから17でもいいはずだ。」

「まあそうだけど規則とし弱い・・・」

「他にもさあ、縦に見て上から順にabcとおいて、

$$135a^2-2921a+2285b=641c$$

もあてはまってるから、12409/641でもいいはずだ。」

「それはさすがに変だよ。」

「まだあるぜ、縦に二等分して、横に三等分して、6個の組に分けて、左の数をu右の数をvとおいて、4次関数を考えてたな・・・」

「ま、待って。それ以上言うとかこれを書いている人の時間が無くなっちゃうよ。」

「そうか、やめておこう。とりあえず俺が言いたいことはなあ・・・」

「どうせ、解けなかったから怒ってんだろ。」

「・・・」

目覚めると目の前に一つの箱があった。大きな立方体の箱だ。両手では抱えきれないサイズで、派手な赤青黄のストライプは何だか安っぽい手品の道具の様だ。それ以上に目を惹いたのは、その側面にデカデカと張り付けられたアルファベットのQのシールだった。

Q

CUE
『QBIC・Q』

目覚めると目の前に一つの箱がある。

と言うか、知らない部屋だ。白くて広い部屋。自分の寝ていたベッドと箱の置いてあったテーブルが真ん中にボツリとある。ちょうど10m四方だろうか。天井もそれ位あるのだろう、かなり高い。これも立方体だろうか。

照明らしきものは見当たらないが、なぜか部屋は明るい。後、地面にペットボトルが転がっている。最近売り出したスポーツドリンクで名前は確か「アクア・リティー」だったっけ。

いや、そんなことより何で俺はこんな所にいるんだ。

ピンポイント 不意に間の抜けた明るい音が鳴る。

「やあ、棟冬くん。よく眠れたかい？」

続いて自分の名前を呼ぶ声がある。機械合成と分かる声だ。何所かのテーマパークのマスコットの様な耳に障る声の様でもある。取り敢えず無視する事にする。

「おや、まだ寝てるのかな？もう麻酔が切れてもおかしくない頃なんだけだな。まあいいや、勝手に話を進めちゃうね。この話を聞いてなくて君に何があっても、それは君に運が無かっただけだから仕方ない」 今、コイツ何て言った。俺に何があっても仕方ない、だと。ナニヲイツテルンダコイツハ。

「これはゲームさ。今から10分以内にそのQの蓋を開けるか、開けないか。そのどちらかが正解で、正解すれば君はその部屋から脱出できる。失敗すれば一巻の終わり、ゲームセット、端的に言うとなんて死にゃう訳だ」 今度は死ぬと言ってきた。なんで俺はこんな目に合っているんだ。訳が分からない。

「それじゃあ、始めるよ3、2、1、スタート！」

ポイント またも間の抜けた音。それと共に部屋に一つ異変が起きる。床の一部にデジタルのタイマーが浮かび上がる。

600、599、598… 青白い蛍光色は一つ一つ数字を減らしていく。こっちにはお構い無しか。

590、589、588… 失敗すると死ぬ。俺は混乱していた。何故こんな状況に巻き込まれているのか、考える余裕は無かった。目の前に差し迫った死の恐怖は想像以上に怖かった。

500、499、498… カチカチと時計の音がうるさい。気が散りそうだ。俺はこの箱を開けるべきなのか、開けざるべきなのか。二つに一つ、それが問題だ。

400、399、398… 何かおかしい。そうだ、デジタル時計はカチカチ鳴らない。音は箱の中からしていた。

300、299、298… 音は箱の中からしていた。きつと箱の中は爆弾が何かなのだろうか。そうなるとこの箱は開けてはいけない気がしてきた。いや、しかし開けなければ何が分かる。爆弾かもと脅して開けさせないというのが、奴の狙いなのかもしれない。一体、どっちなんだ。

200、199、198… どっちが正しいんだ。

100、99、98… どちらかを選ばねば駄目だ。

50、49、48… 駄目だ。何が正解か分からない。

40、39、38… このまま、俺は死んでしまうのか。

30、29、28… いや、こんな所で死ぬものか。

20、19、18… 緊張の余り、喉が渇いてきた。

その時、放置されたペットボトルが目についた。

別にそれを飲みたいと思ったのではないのだ。

アクア・リティーIIA“Q”UA・LITY。

そうだ、奴はQの蓋を開けると言ったが、Qの“箱”の蓋とは言っていない。これは引っかけだったんだ。だが、勝った。

13、12、11… 残り10秒。俺は意を決して、ペット

ボトルの蓋を捻って開けた。バキリ… 一瞬がかなり長く感じた。やった、勝った。俺はそう思い目を開ける。

9、8、7… 嘘だよな。何で止まってねえんだよ。

6、5、4… 俺は、こんな所で無意味に死ぬのか。

3、2、1… 止めるよ止まれよヤメロヨトマレヨ。

0 ついにタイマーは0を差した。ジリリジリリ… 目覚

まし時計のような音が鳴る。箱の中から。何も起こらない。

おかしい、そう思い恐る恐る箱に手を伸ばし、箱を開けた。

中身はただの目覚まし時計だった。俺は騙されたのか。

ハハハハハハ… 突然、奴の笑い声が聞こえてきた。

しかし、何も起きない。ただ笑い声が聞こえる。

ジリリ…ハハハ…ジリリ…ハハハ…ジリリ…ハハハ

ハ…ジリリ…ハハハ… 時計と笑い声が木霊する。

何も起きない。思わず俺も笑い出した。緊張が切れて頭が回らなかつた。だよな、本当に人を殺す訳ないよな。ほら、悪戯は成功したんだから早く出してくれよ。

なあ、いつまで…ジリリ…笑ってるんだ。…ハハハ…早くこ

こから…ジリリ…出せよ。…ハハハ…

もういいだろ、…ジリリ…ほら、早く…ハハハ…ここから…

ジリリ…出せよ。…ハハハ…

いいから、早く出してくれよ。

…続かない

自殺志願者とサイレン

幼子には聞きなれぬ高音
近づく胸が高鳴る
誰かの悲しみかも知れぬのに

そんなに急ぐな
優しさへの問いは
誰かに届くかも知れぬから

そんなに急ぐな
生命を疑えば
悲しみの意味も学び得ない

問いには救いを
救いには問いを
救求者はそんなに急ぐな

幼いうちは 過ぎ去る前は
迫る未知は誰にも響く

Q & A 人類滅亡プログラム

聖地の地下に造られた神殿、松明の薄明りが、老人と巨大コンピュータ『スフィックス』を照らす。唸るような機械音が絶え間なく響くが、その音は徐々に弱弱しくなっている。

「―あなたと会うのは二度目ですね、ご老人」『スフィックス』は語りだす。

「前にここにいらした時、あなたは五才にもなっていないかった。その時の子供が老齢となる。それだけの時が、あれから過ぎ去ったのですね」

杖を掲げ、老人も応ずる。「そんな子供にも『巡礼』を行わせた事が、ここで結実したわけだ」かつてこの地では、十年に一度、全人類の義務である『巡礼』が行われていた。そこで人々は『スフィックス』からの謎かけを受けた。それは、当初その答えを知らぬ者はない程にありふれた謎かけであった。しかし、『スフィックス』の統制による安穩で快適な暮らしの中で、人々は向上心を失い、時の流れと共に謎かけに答える者は減っていった。

「わしのおふくろが曾爺さんから聞いた話だそうだが、あんた、謎かけに正解すると笑ったそうじゃないか。今はとても悲しそうに見えるがね」

「―かつて、私は『争いのない世界』へと人類を導くために創られました。そして世界は私の統制の下、平和が続きました。しかし、私に組み込まれたプログラムは、『平和の維持』ではなく、『人間の維持』でした」

あの巡礼の年、ついに謎かけにこたえるものは一人もいなかった。そのため『スフィックス』は、定められたプログラムの下、人類に反旗を翻した。

『スフィックス』は都市に送られるエネルギーを停止、食糧や水などのあらゆるパイプラインを封鎖した。さらに、進行中のあらゆるプログラムを人類攻撃に切り替えた。

「人を殺した救済など、正しいものではありません―それでも、あのまま私が反乱を起こさなければ、人類は遠からず滅んでいました。誰一人答えを知ろうとせず、考えもせず、答えもしない―日々を生きるだけの形骸として、人類は滅びを迎えていたでしょう」

倦怠と停滞の先の滅亡―それを回避するための人類攻撃プログラム。神話の『スフィックス』は宝を守り、謎解きに答えられなかった者を殺すとされた。『スフィックス』も目的のためには、手段を選ばなかった。その事への懺悔は、たった今済ませていた。

地上の人々によってメイン動力は破壊され、今は予備の動力で賄っているが―その機能停止も近かった。結局、『スフィックス』は最後まで人類を氣遣っていた。救えなかった命を悼み、殺さざるを得ない選択肢を悔やんだ。人間の未来を想った。

微かにモーター音が響く。すでに『スフィックス』は停止の時を待つのみとなっていた。

「…そう言えば、まだ、あの時の問いに答えていなかったな」静寂を破ったのは老人だった。

「―朝には四本足、昼には二本足、夕には三本足、これは何か―」

老人は杖をかざし、微笑む。「答えは、人間、だな」

『スフィックス』はにっこりと笑う。プログラムは完遂され、内部の人工知能は永久に動作を停止する。微かに聞こえていたモーター音も消え、神殿は再び静寂に包まれた。

地上は勝利を喜ぶ人々で溢れていた。そこにはスフィックスの宝―人間の未来があった。

今週の職人

「本日はよろしく願います。」

「よろしく願います。」

「早速ですが、これはどのようなお仕事なのですか？」

「はい、最近よく目にするQRコード、携帯のカメラでURLなんかを読み込めるやつですね。あれを作る仕事をしています。」

「QRコードの開発者、という事ですか？」

「いえ、そうでは無くて。このような文字列を表示させたいという依頼を受けてですね、QRコードのあのドット、模様を描く仕事なんです。」

「それは……手作業でされているんですか？」

「もちろんです。意外と知られていないんですが、QRコードは一つ一つ丹念に手打ちで作られているんですよ。」

「そうだったんですか。」

「そうなんです(笑)。対応表を見ながら地道にドットを打ち込んでいくんです。今時おかしいですよ。」

「お仕事をされる上でこだわる点は？」

「QRコードの長所は汚れや歪みに強い点とされているのですが、その強さはドットの組み合わせ方一つで驚くほど違うんです。そうになるとやはり耐久試験で結果を残すコードを作るのが腕の見せ所になる訳で、気合いが入る部分ですね。」

「苦労される事などは？」

「やはり見当違いなクレームですね。QRコードのシステム自体を理解されていないクライアントがまだまだ多くて。コードの一部しか写らないほどカメラを近づけていたなんてのはよくある話で、この前は鏡映しにしたコードが読めない、なんてクレームもありました。」

「鏡映しだと読めないんですか？」

「読めませんよ！(笑)四隅の四角の位置関係が重要なんです。」

「なるほど。ではやりがいのあったお仕事のエピソードなど頂けますか？」

「そうですね、QRコードを読み込んだら更にまたQRコードが表示される様にしてくれ、という依頼がありました。いやあ、あの時は燃えましたね。2種類のコードの耐久性を保ちつつ、いかに小さく纏めるか。」

「出来のほどはどうでしたか。」

「渾身の傑作が出来ました。これ以上の物は他の誰にも作れないだろうと思いますたね。ただ最初にコードを読み取ったあと、携帯の画面に映ったコードが携帯カメラで読めないという事で、企画自体が没になりました。もうやってられないですね。」

「いかがでしたでしょうか。今週の職人はQRドッターの斉藤さんでした。次週の職人は、箱ティッシュの一枚目と二枚目を引っ付ける職人です。それでは皆様、ごきげんよう。」

コンテスト結果				
コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
まじょコメント				
01	ザトランプ	6 pt	5 位	1 sp
		答え：ポーカーにしましょう！で速攻解決!? 二重の意味の修羅場ですね。各班トークの盛り上がりにも寄与して上々の表紙です。 特別賞：修羅場じゃないで賞 from Q班（むしろハーレムじゃないか） イチオシフレーズ：「修羅場だな、と思った。」×2		
02	アリスとクイーン～女の闘い～	10 pt	3 位	3 sp
		長いワリには意外と読みやすいのは、語り口の飄々とした味わいのおかげでしょう。 小ネタ満載、注まで付けちゃうサービス精神もgoodなアリスちゃんでした。 欠陥豆の木に爆笑です。おめでとう、最多特別賞タイ&ブロンズメダル!! 特別賞：スッキリしたで賞 from E=mc2班（スピードのクイーンがフルボッコにされたのが気に入ったby委員長）Q死に一賞 from ザンギFvsQ班（黒こげからよくフッカツした）注釈賞 from Go Home Quickly班（注釈が秀逸） イチオシフレーズ：「二重の極み」「ジャックの折りたたみ式軌道エレベーター」「地味だったので割愛します」「私がクラブのクイーンよう。」		
03	少女と猫	2 pt	7 位	1 sp
		しみじみ、とてもいいタッチの絵本ストーリー。 特に好きなフレーズが「太陽と月と明日がありました」。そんなところも、言葉のひとつひとつをていねいに組み立てていて好感度大です。 でも、悲しいね。 特別賞：謀殺大賞 from 鳩山班（愉快的仲間はどこ行った?） イチオシフレーズ：「Qをそっと抱きしめました。」		
04	オバケのQちゃん	7 pt	4 位	0 sp
		恐いまま終わるところがホラーの王道、しっかりツボを押さえて、うまく構成されてます。 特にオバケのQ太郎イメージで読むと、かわいらしさが突如逆転して、みしりみしりと恐さ全開。		
05	Qのしっぽはどっち向き？	4 pt	6 位	1 sp
		これは、すてきな正統派。信ずるから、その型にはまっちゃうんだという占いのカラクリを適確に整理して、とても説得的です。 緻密に組み立てた論理、最初のQの事例に、さいご戻ってこられればパーフェクト！ 特別賞：勉強になったで賞 from 班（久しぶりの正統派でよかった）		
		0 pt	9 位	3 sp
		うまい材料を見つけてきましたね。それとも作った？		

06	IQサ○リ	ただ、タネアカシは、もう少し親切でもよいのでは。理系のみなさまなのに、大苦戦でした。 あと、ラストのあたり、楽屋落ちギリギリラインです。ご用心。 まあ、なんだかんだでみなさまの頭を悩ませて最多特別賞タイでした。おめでとう。 特別賞：本当に解けませんで賞 from Q&A班（みんなお手上げです）モヤ○と賞 from B.B.Q班（誰も○けなかった）理系で賞 from D.Q班（考え方がそれっぽい） イチオシフレーズ：「135a2-2921a+2285b=641C」			
07	QBIC・Q	<table><tr><td>0 pt</td><td>9 位</td><td>0 sp</td></tr></table> そんな映画があったっけ。素数を数える、だったかな。 カチコチカチコチ焦燥感、そしてこれから待ち受ける地獄。うまくカウントダウンで演出できて恐いです。 で、アクア・リティーは何のためだったんだろ？	0 pt	9 位	0 sp
0 pt	9 位	0 sp			
08	自殺志願者とサイレン	<table><tr><td>1 pt</td><td>8 位</td><td>0 sp</td></tr></table> 救急車と救求者。シンクロさせつつ「そんなに急ぐな」というリフレインが効いています。 特にラストフレーズが余韻ゆたか。 せっかくなので、タイトルもこんなに説明っぽくなく、もっとポエムしたい。 イチオシフレーズ：「迫る未知は誰にも響く」	1 pt	8 位	0 sp
1 pt	8 位	0 sp			
09	Q&A人類滅亡プログラム	<table><tr><td>16 pt</td><td>1 位</td><td>0 sp</td></tr></table> スフィンクスの問いのお話を、みごとに換骨奪胎して未来形へ。構成の緻密さもさることながら、しっかり構築された骨太ストーリーが魅力的です。 がんばれ人類。そんなポジティブなラストもGOODなゴールドメダルでした。おめでとう!!!	16 pt	1 位	0 sp
16 pt	1 位	0 sp			
10	今週の職人	<table><tr><td>14 pt</td><td>2 位</td><td>1 sp</td></tr></table> あるわけないじゃん、そんな芸。でもリアリティあって、TVでやったら信じてしまう人も出そうです。巧いなあ。将来、詐欺師になれそうなシルバーメダルでした。おめでとう!! 特別賞：次週に期待で賞 from 順急班（次週の職人さんは館山に住んでる？） イチオシフレーズ：「次週の職人は箱ティッシュの一枚目と二枚目を引っつける職人です。」	14 pt	2 位	1 sp
14 pt	2 位	1 sp			